

教材活用シリーズ 第 152 回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

文科省による「令和 2 年度青少年の体験活動に関する調査研究結果報告」21 世紀出生児縦断調査を活用した体験活動の効果等分析結果について（令和 3 年 9 月 8 日）において、小学生の頃に体験活動の機会に恵まれていると、高校生の頃の自尊心が高くな

充実した自然体験活動を『わくわくずかん』で

子どもたちの無限の可能性を引き出す教材―

(株)正進社
『わくわくずかん
しょくぶつはかせ・こんちゅうはかせ』



ながい たかのり
永井 貴憲
(岡山市立西小学校 教諭)

小学校教員として現在まで勤務。
共著：『理科』授業の新法則』、『新・授業づくり&学級経営 365 日サポート BOOK』3・6 年（いずれも学芸みらい社）。



▲『しょくぶつはかせ』「タンポポ」の頁

る傾向が、家庭の経済状況などに左右されることなくみられるなどのことがわかった。
充実した体験活動が将来、よい影響を与えるということである。
そのような機会を平等に与えるために、教材『わくわくずかん』は最適である。



▲『こんちゅうはかせ』「モンシロチョウ」の頁

『わくわくずかん』に載っている特徴から俳句・短歌・詩づくりもでき、理科だけではなく、他の教科（国語・図工等）でも使用可能である。
☆魅力④ イラストで描かれているので、自信をもって描くことができる
写真を見て描くと、非常にハードルが高くて描きにくいようだ（子ども談）。また、背景に余計な視覚刺激があるので、描きにくい。
それに比べてイラストだと、特徴的なところを詳しく描くことができる。背景も白なので視覚刺激もなく集中・熱中して描くことができる。描くことで、昆虫は頭・胸・腹だけ

その『わくわくずかん』の 6 つの魅力を挙げる。
☆魅力① ポケットサイズで携帯しやすい
『わくわくずかん』はコンパクトかつポケットサイズ（新書判）で携帯しやすい。ポケットにすっぽり入るので、生きもの探検に大変、適した図鑑である。
☆魅力② 知的な内容も載っている
カタバミの不思議な力（P. 20）、蝶と蛾の違い（P. 17）等、知的な内容が満載である。これを読むだけでも「植物・昆虫はかせ」になること間違いなしである。

☆魅力③ 他教科等でも使用可能
『わくわくずかん』に



▲豆知識も豊富「カタバミ」の頁

ではなく、節に分かれていることに気づくことができる。

☆魅力⑤ 「たくさんのお名前を覚えられる」

『わくわくずかん』を読むことで自然に名前を覚えることができる。身の回りにある生きもの（草花・昆虫）を「花が咲いている」「虫がいる」ではなく、「ホトケノザが咲いている」「アオスジアゲハが飛んでいる」と名前をつけて言うことができるようになる。

☆魅力⑥ 「価値ある道草」ができるようになる

生きもののお名前を覚えることで、子どもたちの「道草」が増えてくる。

深い認識での「道草」ができる。「たくさん生きもの（植物・昆虫）の名前を覚えることができた」という自信が価値ある「道草」をさせることにつながる。

次に『わくわくずかん』の3つの活用術を挙げる。

○活用術① 生きもののお名前を覚える

生活科・理科の授業開始前に『しよくぶつはかせ』と出会う前に「知っている草花の名前を書きましょう」とノート（プリント）に書くようにする（『こんちゅうはかせ』と出会う時も同様）。

4月頃はほとんどの子が10種も書けないが、定期的に覚える機会をつくってチェックすると、草花（昆虫）の名前を100種以上書く子が出てくる。以下、草花の名前を100種書くことができた子どもの感想（3年生女子）である。

『わくわくずかん』で植物の名前を100こおぼえたしゅんかんは『自分ってこんなにおぼえたんだなあ』と感動した。99こいった時、『あと1こ、あと1こ』と自分の頭の中でエールを送った。そうしたら思い出して『チチコグサ』と聞いた。私は『わくわくずかん』がなかったら10こぐらいだったと思う。だから『わくわくずかん』をつくった人に感謝したい。

○活用術② ミニ生け花会

「ミニ生け花」とは、オアシスを用意して、その上に草花を活けていく実践である。子どもたちがお気に入りの草花を校庭から採取し、それを活かしていく。やり方がわかると、自主的に休み時間にするようになる。家でも行うようになる。参観日で保護者と一緒になると、生きものを通して親子の交流がうまれる価値ある実践（「親子ふれあい生け花会」となる。



▲ミニ生け花の作品

左記、保護者（3年生母親）の感想である。

ここ数日間はいろいろな野草の名前がわが子の口から飛び出してきました。私や小6の姉に向かって『○○って知って

る？』『△△は？』と最近おぼえた野草の名前を次から次へと聞いてきます。今までテレビゲームには夢中になっても風景や自然にはあまり関心をもつことなかった子供を（昆虫には夢中になっていた時期がありますが）、無気力・無感動だと思っていました。ほんの少しのきっかけを与えることでこんなに夢中になれるのだと改めて感じました。今日の生け花会では、初めて自分で生けたらしく『気持ちいい』ととてもうれしそうでした。

○活用術③ WEBと連動「わくわくずかん+（プラス）」

自己学習にも使える子ども向けポータルサイト
・わくわくずかん「使い方マニュアル」
・生物の動画などが見られる「リンク集」
・わくわくずかん「ネットけんてい」
WEBと連動し、教材の使い方が理解できたり、カタバミの種が飛ぶ瞬間やアリの巣の中等を動画で観ることができたりするので、より価値ある深い学びになる。

『わくわくずかん+』を使って

の価値ある自然体験活動で、子どもたちの一生を左右する「無限の可能性（ドラマ）」を引き出すことができる。



▲「わくわくずかん+」

